

5. 河川敷周辺の陸域のごみ調査

5. 河川敷周辺の陸域のごみ調査

河川敷周辺の陸域の散乱ごみの分布状況等を調査した。

5-1 河川敷周辺の陸域のごみ調査

5-1-1 調査方法

(1) 調査方法

調査範囲内における公道、公有地を対象とし、散乱ごみの分布状況、ごみのホットスポット等を目視にて確認した。調査対象とするごみは、ある一定範囲にまとまって存在、あるいは連続して存在している評価ランク2（容量10L相当）以上のごみとした。また、散乱ごみばかりでなく、例えば管理・対策が適正でないごみステーション、劣化が進む廃屋等、将来的にごみの発生要因となりうる恐れのある場所（ごみ）も対象とした。

対象としたごみは組成を確認し、評価ランク付けするとともに、地図上に確認した位置をポイントした。



道路側溝

（人の目が届きにくい地点、一時停車スペースのように人の滞留がある場合にごみが投棄される）



ごみステーション周囲

（河川や雨水排水路が近傍に位置する場合は、容易にごみが河川等へ流出する可能性がある）



開渠の用排水路

（河川へごみが流出する箇所。周辺の散乱ごみの流入のほか、直接ポイ捨てされる場合がある）



橋梁下部

（人の目が届きにくい地点。増水時に容易に河川へ流出する可能性がある）

図 5-1-1 調査対象とするごみのイメージ

(2) 調査地点

調査地点は、5河川各3地点とした（流下ごみ調査と同地点）。

調査範囲は、原則として橋梁を中心とした半径約200mの範囲とし（河川敷は含まない）、範囲内における公道（車道を除く）、公有地（公園、公共施設等）を対象とした。ただし、事業所や私有地と思われる雑種地等においても、ごみが散乱していたり、敷地外に流出の可能性がある地点は対象とした。

表 5-1-1 調査地点

調査対象河川	調査地点
御笠川	御 1_筒井橋
	御 2_下川原橋
	御 3_白川橋
釣川	釣 1_河東橋
	釣 2_赤間大橋
	釣 3_釣川橋
長峡川	長 1_古川橋
	長 2_稗田橋
	長 3_折口橋
建花寺川	建 1_二瀬橋
	建 2_伊岐須橋
	建 3_立花下橋
堂面川	堂 1_仮屋前橋
	堂 2_七夕橋
	堂 3_前丁橋



図 5-1-2 調査地点のイメージ

【御 1_筒井橋】



【御 2_下川原橋】



【御 3_白川橋】



※図中の赤丸は中心となる橋。外側の大きな円は半径 200m の範囲

図 5-1-3 御笠川調査地点

【釣 1_河東橋】



【釣 2_赤間大橋】



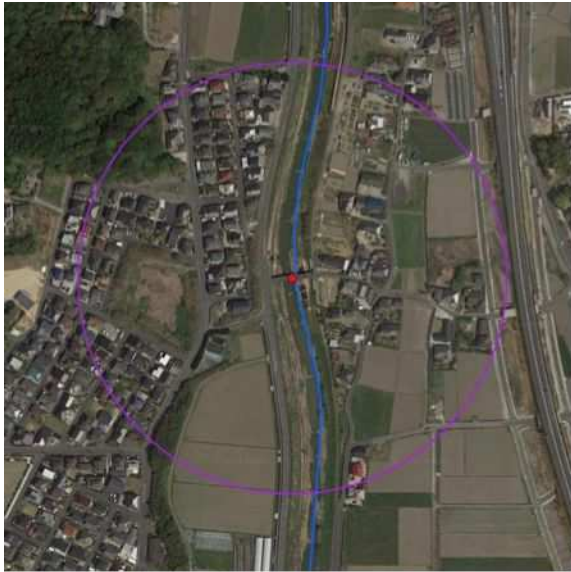
【釣 3_釣川橋】



※図中の赤丸は中心となる橋。外側の大きな円は半径 200m の範囲

図 5-1-4 釣川調査地点

【長 1_古川橋】



【長 2_稗田橋】



【長 3_折口橋】



※図中の赤丸は中心となる橋。外側の大きな円は半径 200m の範囲

図 5-1-5 長峡川調査地点

【建 1_二瀬橋】



【建 2_伊岐須橋】



【建 3_立花下橋】



※図中の赤丸は中心となる橋。外側の大きな円は半径 200m の範囲

図 5-1-6 建花寺川調査地点

【堂 1_仮屋前橋】



【堂 2_七夕橋】



【堂 3_前丁橋】



※図中の赤丸は中心となる橋。外側の大きな円は半径 200m の範囲

図 5-1-7 堂面川調査地点

(3) 調査日

調査日は表5-1-2に示すとおりであり、原則として河川を流下するごみの調査期間中に実施した。

表 5-1-2 調査日

河川	調査日
御笠川	令和6年2月15日
釣川	令和6年2月18日
長峡川	令和6年2月13日
建花寺川	令和6年2月9日
堂面川	令和6年1月28日

※釣川は天候等の関係で流下ごみ調査期間外の実施

5-1-2 調査結果

各地図に示した凡例は、下記のとおりである。

- | |
|--|
| <p>○ 留意すべきごみを確認した箇所 ※ () 内はごみの評価ランク
△ 発生源となりうるごみ等 (現時点では環境に影響を及ぼしていない)
※橋を中心とした大きな円は半径200mの範囲</p> |
|--|

(1) 御笠川

調査地点周辺の地域概況を表5-1-3、確認した散乱ごみの状況を表5-1-4～表5-1-14、図5-1-8～図5-1-10及び以下に示す。

表 5-1-3 調査地点周辺の地域概況

橋梁名	周辺の地域概況
筒井橋	河川を境に西側は住宅地、東側は商工業地と明確に分かれている。筒井橋は国道3号と県道112号を連絡することもあり、交通量は比較的多い。 歩行者用に堤防道路が整備されていることから、散歩者も多くみられた。
下川原橋	周辺には事業所、高齢者施設もみられるが、一帯は主に住宅地として開発が進んでいる。なお、河川右岸には比較的新しい住宅が立ち並んでいる。 本橋から上流では、歩行者用に堤防道路が整備されていることから散歩者もみられた。
白川橋	周辺は比較的古い平静な住宅街である。北東約500mに西鉄太宰府駅があるが、特に本地点周辺が観光コースになっている様子はなく、観光客はあまりみられなかった。 河川左岸には歩行者用道路が整備されており、地域の人の散策路になっている。河川右岸の道路は、上流約400mに位置する高校への通学路となっている。

①筒井橋

筒井橋は、河川を挟んだ両岸でははっきりと土地利用が区分でき、それに伴い散乱ごみの状況も異なる。左岸側の住宅地では散乱ごみをほとんど確認できなかったが、右岸側の工業地では、複数の側溝内で散乱ごみを確認した。側溝内のごみは、性状から事業所・工場から流入したものであると想定される。また、大部分の事業所では敷地周辺へのごみの散乱は確認されなかったものの、一部の事業所では管理が不十分であり、公道近くまでごみが広がっているものもあった。但し、これらのごみは現時点で河川に流入する可能性は低い。

表5-1-4 筒井橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	公園	5	粗大ごみ（ごみ箱、ケース）
②	小売店	—	-
③	側溝	4	古い樹脂(?)
④	側溝	2	事業系ごみ（判別できず）
⑤	事業所付近	—	事業系ごみ（家電製品、消火器等の粗大ごみ）
⑥	民家(事業所)	—	段ボール等

②下川原橋

調査範囲内では、散乱ごみをほとんど確認できなかった。御笠川に流入する水路において、水路内に堆積したごみと、その水路の法面でごみを確認した。水路内のごみは、降雨により水量が増水すると、御笠川へ流入することも想定される。また、水路法面のごみは、植物が繁茂しているところで確認されたことから、積年のごみが植物に引っかかり溜まっていったものと思われる。

表5-1-5 下川原橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	水路法面	4	空き缶、ペットボトル、プラ製品、プラ容器包装、紙製容器包装
②	水路内	2	レジ袋、ペットボトル、缶、ビニル、プラ容器包装

③白川橋

調査範囲内では、散乱ごみをほとんど確認できなかった。特に住宅地内では細かなごみもほとんどみられなかった。一方、体育館近接の河川敷で一定量のごみがみられたことから、施設利用者との因果関係も疑われる。また、体育館ばかりでなく、右岸河川敷のある一定の範囲でごみが多くみられたことから、道路の通行・通学者によるごみの投棄も疑われる。なお、本河川敷に落ちたごみは、土地や植生の形状から河川水量が増水しない限り河道内に流入する可能性は低いと考えられる。

表5-1-6 白川橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	ごみステーション	—	—
②	ごみステーション	—	—
③	体育館周辺	—	—

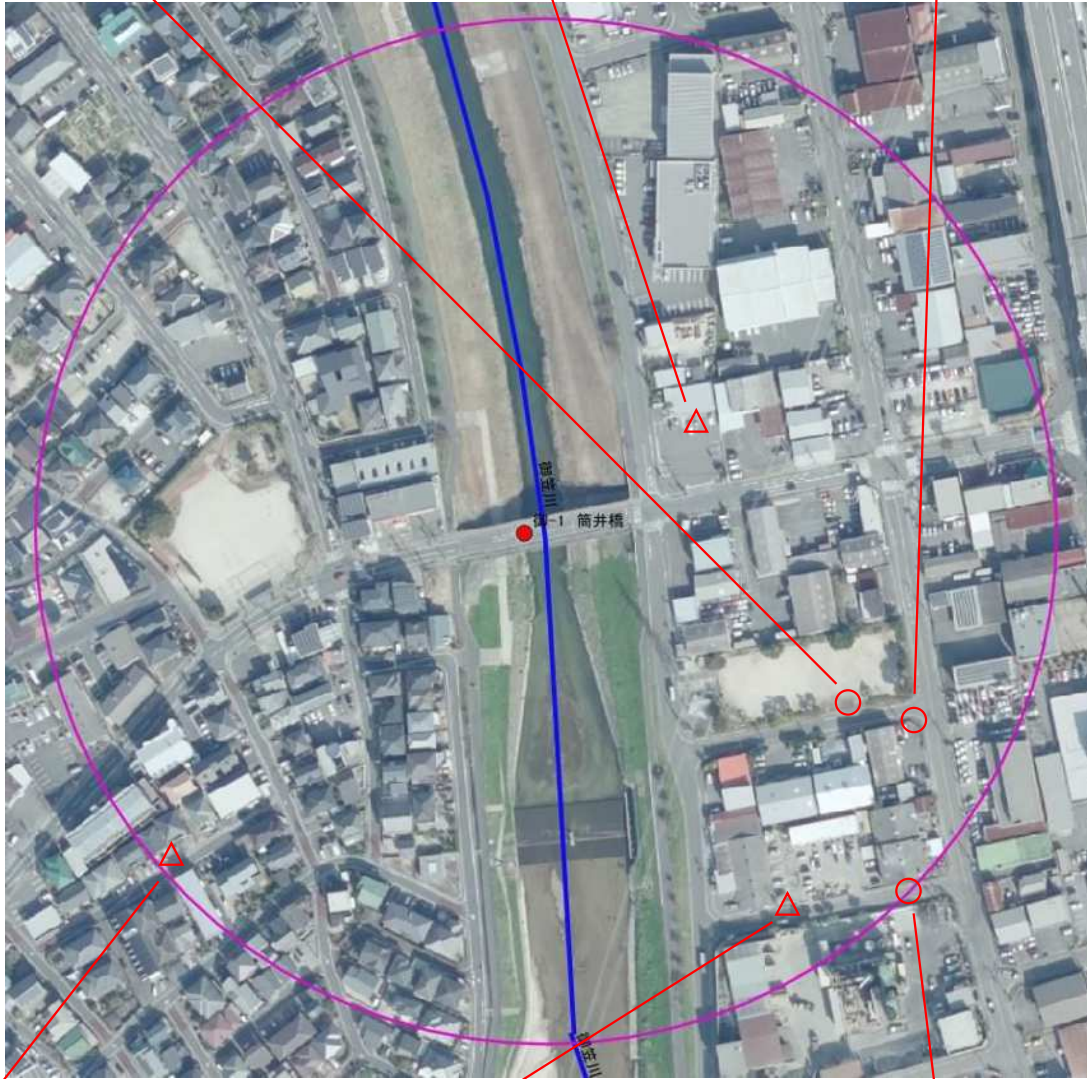
①公園(5)



②小売店(-)



③側溝(4)



⑥民家(事業所)(-)



⑤事業所付近(-)

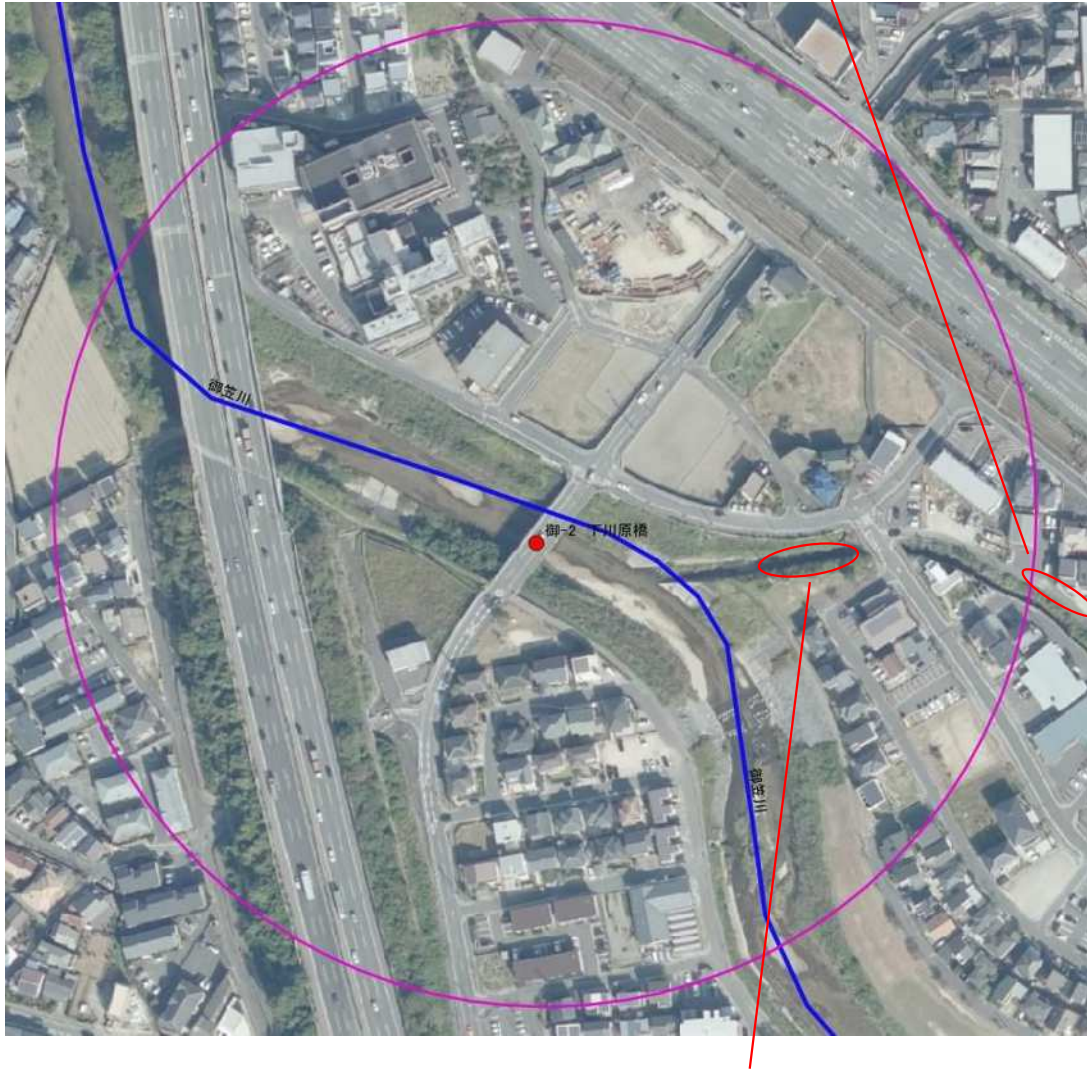


④側溝(2)



図 5-1-8 河川敷の周辺のごみ分布状況 (御1_筒井橋周辺)

①水路法面(4)



②水路内(2)



図 5-1-9 河川敷の周辺のごみ分布状況 (御 2_下川原橋周辺)

①ごみステーション(-)



③体育館周辺(-)



②ごみステーション(-)



図 5-1-10 河川敷の周辺のごみ分布状況 (御3_白川橋周辺)

(2) 釣川

調査地点周辺の地域概況を表5-1-7、確認した散乱ごみの状況を表5-1-8～表5-1-9、図5-1-11～図5-1-13及び以下に示す。

表 5-1-7 調査地点周辺の地域概況

橋梁名	周辺の地域概況
河東橋	<p>周辺は田畑となっている。河川を境に北側は住宅地（集落）が存在している。南側は河川に沿って地域の主要幹線道路である県道 69 号（宗像玄海線）が走っており交通量も多い。県道 69 号沿いに事業所が点在しており、今回の調査範囲では大部分が宗像市終末処理場敷地となっている。</p> <p>河川右岸の堤防道路は主に地元の方が利用している様子であり、車の通行はあまりみられなかった。</p>
赤間大橋	<p>周辺は大型の商業施設や病院等の事業所、集合住宅である。これらの商業施設等の外縁には田畑が広がっている。北 200m に JR 赤間駅がある。</p> <p>河川両岸の堤防道路は歩行者用に整備されており、地域の人の散策路になっている。</p> <p>南西約 500m に高校があり、JR 赤間駅に連絡する本橋は通学路となっていることから、調査中も多くの学生が通行していることを確認した。</p>
釣川橋	<p>河川を境に北側は主に住宅街、南側は商工業地、田畑となっている。北側には大型の小売店があり地域住民の買い物の拠点となっている。また、住宅街では学生向けの賃貸アパート等が多くみられた。南側の商工業地域では、南西側に工場等の事業所が集中しており、また、南約 200m に規模の大きな遊戯施設（パチンコ）も立地している。</p> <p>本橋の上流左岸は堤防道路が歩行者用に整備されており、公園施設もあることから散歩者も多くみられた。本橋下流の堤防道路は特に整備されていない。</p> <p>本橋である県道 75 号は国道 3 号に近いこともあり、比較的交通量が多い。</p>

①河東橋

調査範囲において散乱ごみは確認されなかった。

②赤間大橋

調査範囲内では、散乱ごみをほとんど確認できなかった。本地点内の水路では、水路内の植物に引っかかったごみの堆積を確認した。なお、これらのごみは現時点では河川に流入する可能性は低いですが、河川水量の増水時には留意が必要である。

本地点周辺は商業施設が多く、それらの施設では周辺の清掃が適切になされていると想定される。一方、本橋の直下の河川敷では、飲料、食品等の容器包装を多く確認したことから、自然に流入するもの以外に、通行者により河川並びに河川敷に投棄されている可能性がある。本橋においては、現地踏査時に学生が多く通行することを確認した。

表5-1-8 赤間大橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	水路	2	ペットボトル、ビニル、缶、レジ袋
②	水路	2	看板、空き缶、ペットボトル、紙製容器包装
③	小売店	—	—
④	小売店	—	—

③釣川橋

調査範囲内では、散乱ごみをほとんど確認できなかったが、橋付近の雑種地において、不法投棄禁止の看板の下に大量のごみが置かれていた。河川近傍であることから、河川に流入する可能性もある。

陸域には散乱ごみが少なかったものの、調査範囲内の河川敷では、消火器等の粗大ごみも幾つか確認した。本橋上流の右岸河川敷は、左岸河川敷に比べるとごみは多くなっているが、河川敷沿いの道路は開けた環境でありごみ捨てが容易な環境にはみえない。なお、右岸側には、近隣の大学生用の賃貸住居が多数あった。

表5-1-9 釣川橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	小売店	—	—
②	雑種地	5	空き缶、発泡スチロール、プラ容器包装、紙製容器包装
③	ごみステーション	—	—
④	事業所	—	—

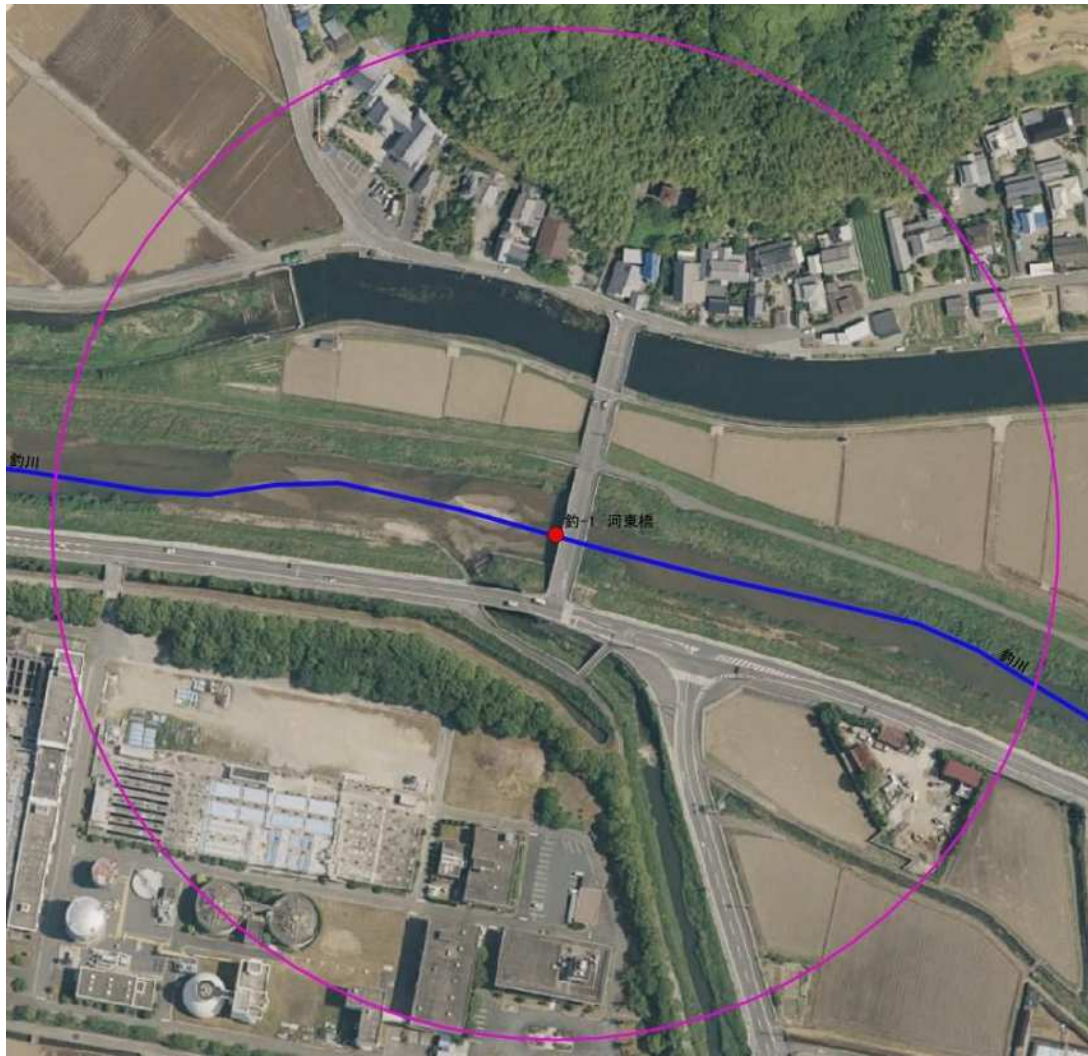
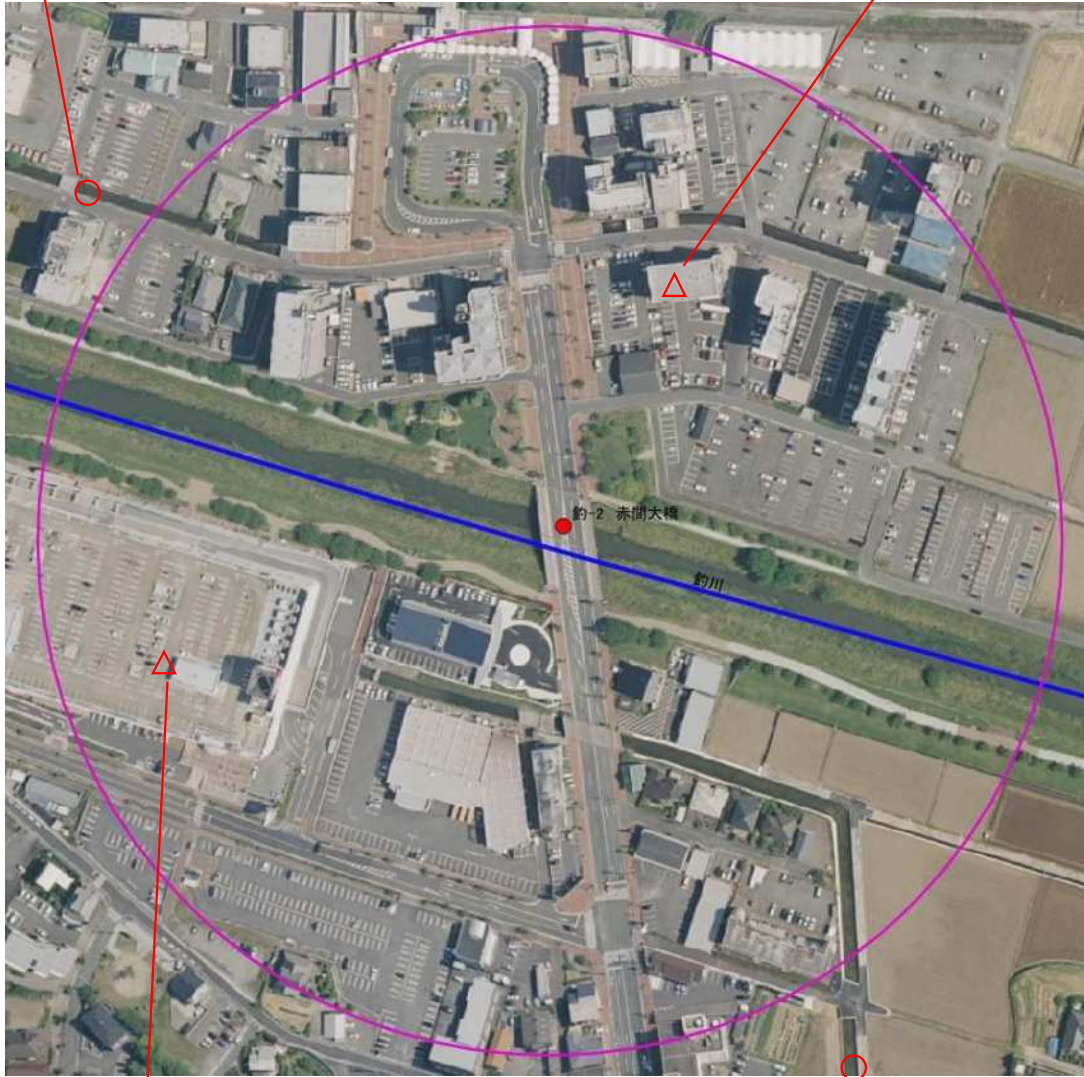


図 5-1-11 河川敷の周辺のごみ分布状況（釣1_河東橋周辺）

②水路(2)



③小売店(-)



④小売店(-)



①水路(2)

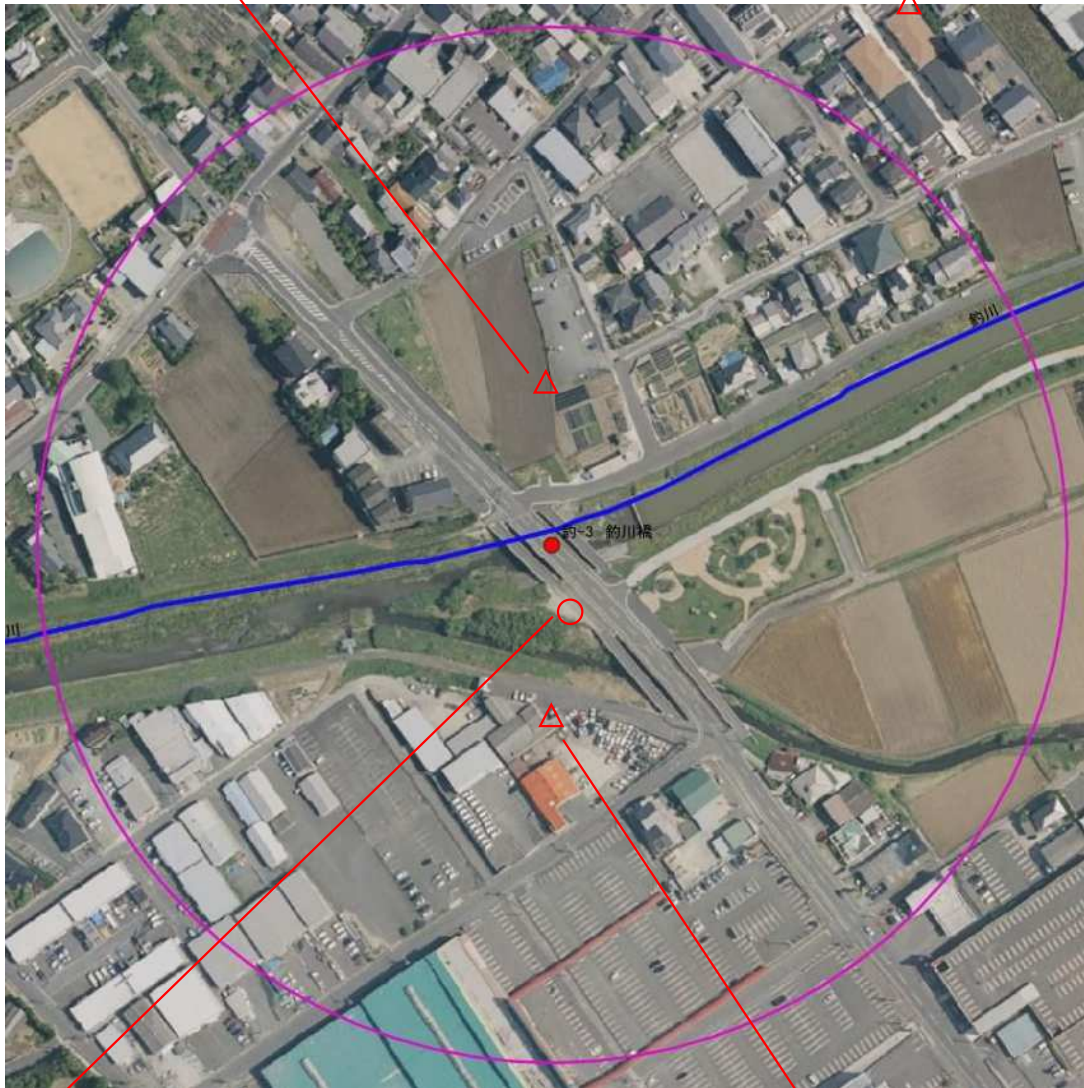


図 5-1-12 河川敷の周辺のごみ分布状況 (釣2 : 赤間大橋周辺)

①小売店(-)



③ごみステーション(-)



②雑種地(5)



④事業所(-)



図 5-1-13 河川敷の周辺のごみ分布状況 (釣3_釣川橋周辺)

(3) 長峡川

調査地点周辺の地域概況を表5-1-10、確認した散乱ごみの状況を表5-1-11～表5-1-13、図5-1-14～図5-1-16及び以下に示す。

表 5-1-10 調査地点周辺の地域概況

橋梁名	周辺の地域概況
古川橋	周辺は住宅地、田畑となっている。河川を境に西側は比較的新しい住宅地、東側は古い住宅地（集落）となっている。 河川右岸の堤防道路は歩行者用であるが、通行している人を確認できなかった。左岸は主に自動車の通行する道路となっている。本橋の通行者はあまり確認できなかった。
稗田橋	河川を境に北側は住宅地（集落）、南側は田畑となっている。 河川と並走する県道 252 号も交通量は少ない。本橋の通行者はあまり確認できなかった。
折口橋	周辺は主に田畑となっており、民家が点在している。調査範囲外ではあるが、西側には住宅地（集落）がある。 河川と並走する県道 253 号は本地域の主要幹線道路となっており、比較的交通量がみられた。なお、本橋や周辺に関して、通行者はあまり確認できなかった。

①古川橋

調査範囲内では、全体的には散乱ごみはほとんどなく、一部の雑種地（空地）において散乱ごみを確認したのみである。これらのごみは、地形的にも河川に流入する可能性は低いですが、ごみのホットスポットに拡大する恐れがあるので留意すべきである。

また、調査範囲内で、堤防道路沿いで廃屋や廃資材置き場を確認した。これらがすぐに河川に流入する恐れはないが、台風等の自然災害時には流入リスクが高まることが予想される。

表5-1-11 古川橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	廃屋	—	—
②	堤防道路	9	建築資材、トタン、鉄の棒等
③	雑種地	5	プラ製品（ケース、プランター等）
④	雑種地	3	レジ袋、ペットボトル、プラ容器包装、空き缶、プラ製品

②稗田橋

調査範囲内では、散乱ごみはほとんど確認できなかった。廃屋や資材置き場を確認したものの、敷地外にごみが流出している様子もなく、河川に流入する可能性は低いと考えられる。

表5-1-12 稗田橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	廃屋	—	—

③折口橋

調査範囲内では、河川近くの側溝に散乱ごみを確認した。常時、水が流れている場所ではないが、降雨により増水した場合、河川に流入する可能性も考えられる。

表5-1-13 折口橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	側溝	3	プラ容器包装、缶、ペットボトル、レジ袋、紙製容器包装

④雑種地(3)



①廃屋(-)



②堤防道路(9)



③雑種地(5)



図 5-1-14 河川敷の周辺のごみ分布状況 (長 1_古川橋)

① 廃屋 (-)

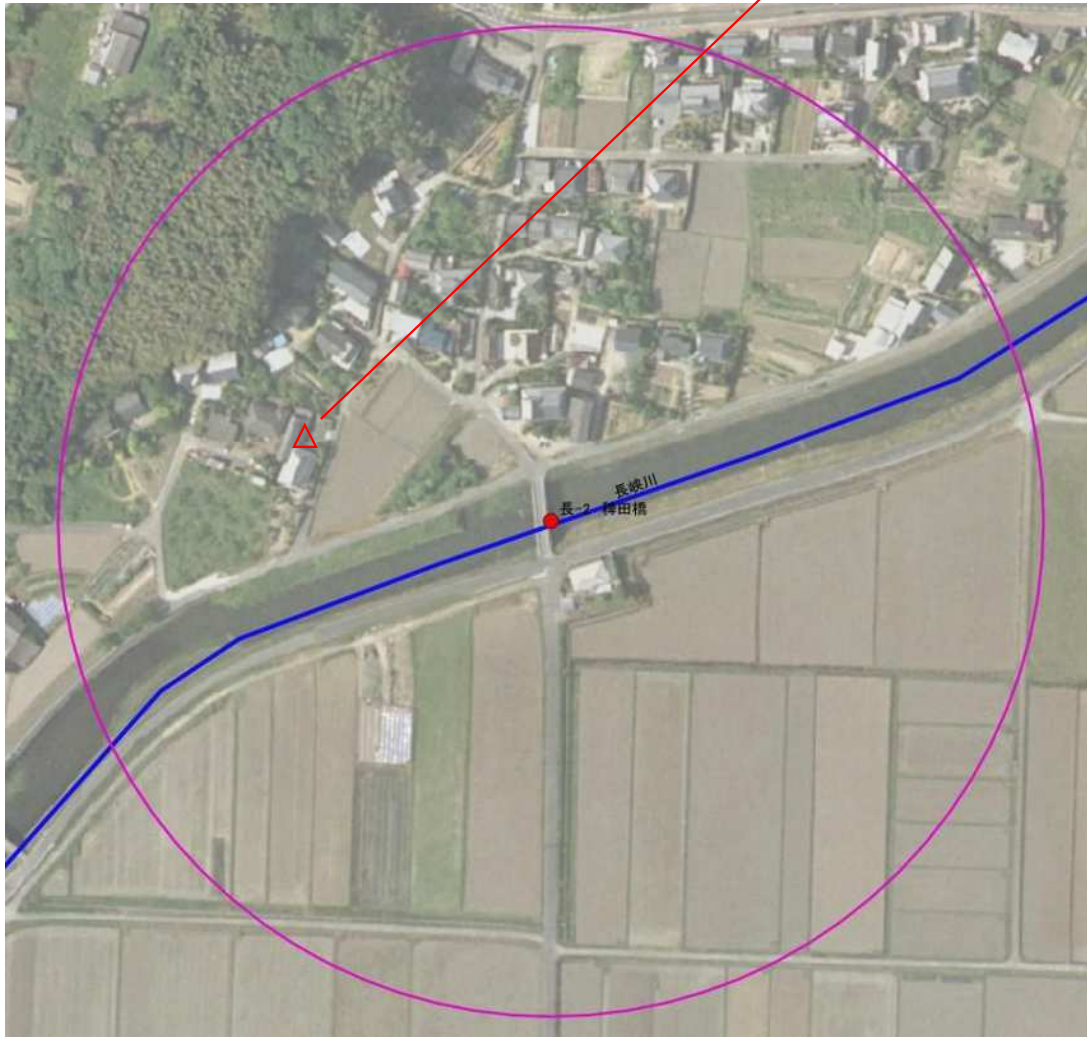


図 5-1-15 河川敷の周辺のごみ分布状況（長2_稗田橋周辺）

①側溝(3)

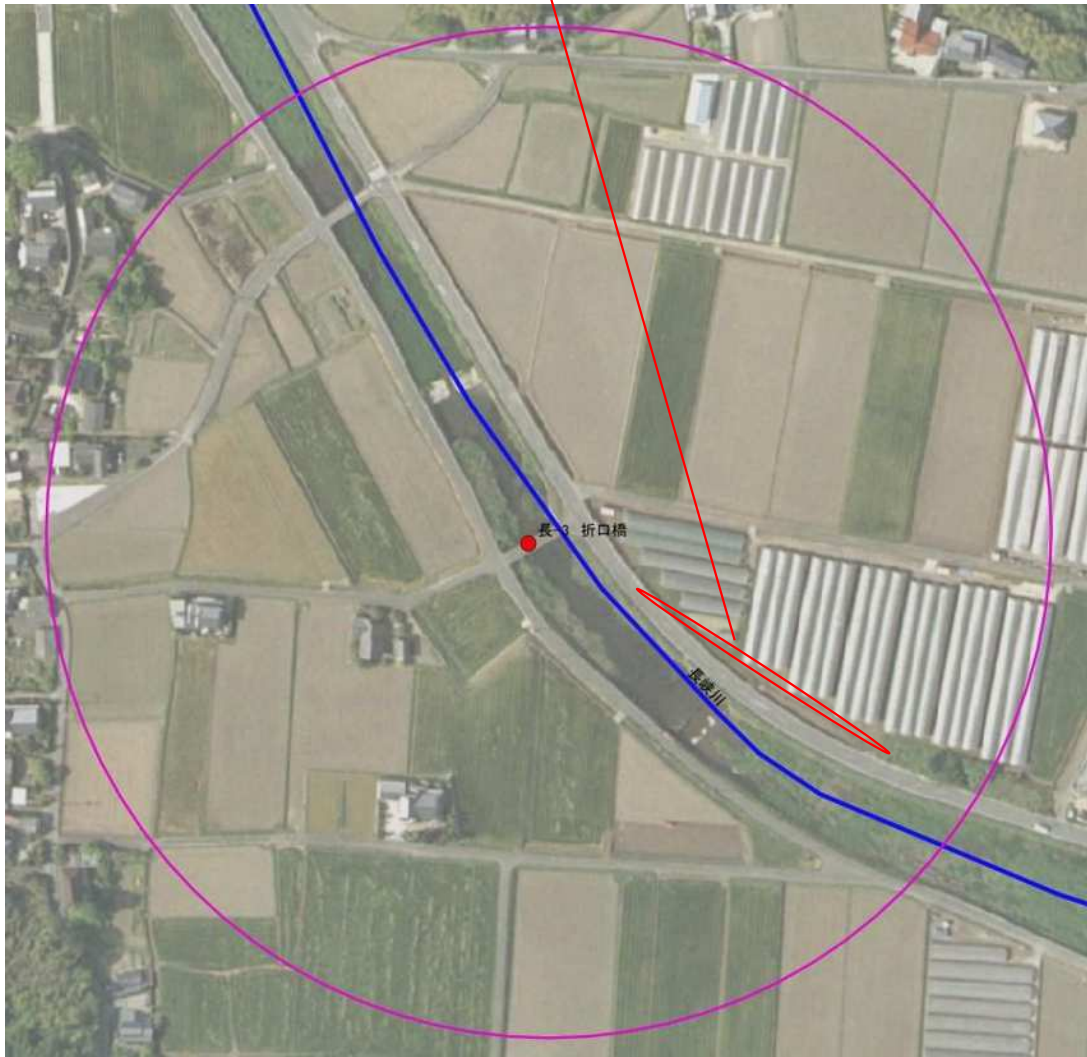


図 5-1-16 河川敷の周辺のごみ分布状況（長3_折口橋周辺）

(4) 建花寺川

調査地点周辺の地域概況を表5-1-14、確認した散乱ごみの状況を表5-1-15～表5-1-17、図5-1-17～図5-1-19及び以下に示す。

表 5-1-14 調査地点周辺の地域概況

橋梁名	周辺の地域概況
二瀬橋	周辺は商工業地、住宅地となっている。本橋は国道 200 号であり、交通量は多い。国道沿いに商業施設、少し離れると工場が立地している。 堤防道路は右岸が国道 200 号であり、歩道にはガードパイプが設置されている。左岸は車両、人が通行できる堤防道路であり、河川沿いに柵等は特に設けられていない。 左岸堤防道路に関しては、橋を起点として上流方向が高校生の通学路になっている様子もみられた。一方、下流方向には、通行者はほとんどみられず、車両の通行を確認したのみである。
伊岐須橋	周辺は住宅地、学校（中学校）となっている。河川に近接して南側にコンビニエンスストアがある。駐車場も広く、多くの人利用している様子であった。本橋は学生の通学路となっており、登下校時間帯には多くの学生が通行していた。 河川兩岸の堤防道路は歩行者用として整備されておらず、河川沿いに歩いている人は多くはなかった。
立花下橋	周辺は田畑、山林で、住宅はまばらに点在している。本橋や道路を通行する歩行者はみられなかったが、本道路は大型車も含めて車の通行が比較的多い。地域間を結ぶ幹線道路になっていると想定される。 調査範囲全体としても、車以外には人が通行している様子はまばらであった。

①二瀬橋

二瀬橋は、河川を挟んだ両岸でごみの様相が異なっていた。右岸側地域では散乱ごみを確認しなかったものの、左岸側地域では側溝に堆積したごみを確認した。開放系の側溝は、常時水が流れていない限り、落ち込んだごみは堆積していくことになる（右岸側地域では開放系の側溝があまりなかった）。また、一定期間放置されていると思われる廃店舗（商業スーパー）を確認したが、敷地内に店舗由来のごみそのまま放置されていることに加え、敷地周辺でもペットボトル等のごみが範囲内では多くみられた。ごみが散乱した環境が、別のごみを呼び込み、ごみが捨てられやすい状態につながったことも想定される。

側溝内のごみは、水路内に水が流れた場合、河川に流入することも想定される。また、廃店舗の周辺にも水路は存在していたことから、水路を通じて河川に流入する可能性もある。

表5-1-15 二瀬橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	側溝	3	ペットボトル、プラ容器包装、空き缶、紙製容器包装、マスク、電球、レジ袋、タバコ
②	雑種地	3	ペットボトル、空き缶、プラ容器包装、紙製容器包装
③	側溝	4	ペットボトル、空き缶、レジ袋、プラ製品
④	側溝	4	家電製品（テレビ）
⑤	廃店舗	6	プラ製品、木切れ、事業系ごみ、ペットボトル、プラ容器包装等

②伊岐須橋

調査範囲内では、散乱ごみをあまり確認できなかった。本橋そばに小売店（コンビニエンスストア）があり、同店舗敷地内はきちんと清掃がなされていたが、敷地近傍（敷地外）では同店由来のごみも確認できた。小売店として敷地内外問わずの散乱ごみの清掃ならびに発生防止に努めることが望ましい。

小売店は河川近傍に立地していることから、河川に流入するごみの発生源になる可能性はある。また、廃屋等も、このままごみが集まってくると、河川ごみの発生源になることも考えられる。

表5-1-16 伊岐須橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	ごみステーション	—	—
②	廃事業所	—	—
③	小売店	—	—
④	雑種地	2	空き缶、ペットボトル、プラ容器包装、紙製容器包装
⑤	廃屋	—	—
⑥	廃事業所	—	—

③立花下橋

調査地点は周辺に田畑が広がっており、これらの地点では散乱ごみを確認できなかった。

一方、本橋を通行する車の台数は、本地の状況からすると明らかに多く、地域にとって主要な連絡道路になっていることが想定される。調査地点の北から東にかけては山林であるが、山林内を走る道路周辺では散乱ごみを多く確認した。車の通行が大部分である道路であることから、車からごみが投棄されていることが想定される。現時点では道路周辺のごみが直接的に河川に流入する可能性が低いが、潜在的要因とはなりうる。

表5-1-17 立花下橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	雑種地	3	発泡スチロール、ビニル、プラ容器包装、レジ袋、段ボール
②	山林	3	レジ袋、ペットボトル、缶、プラ容器包装
③	道路	4	レジ袋、ペットボトル、缶、プラ容器包装

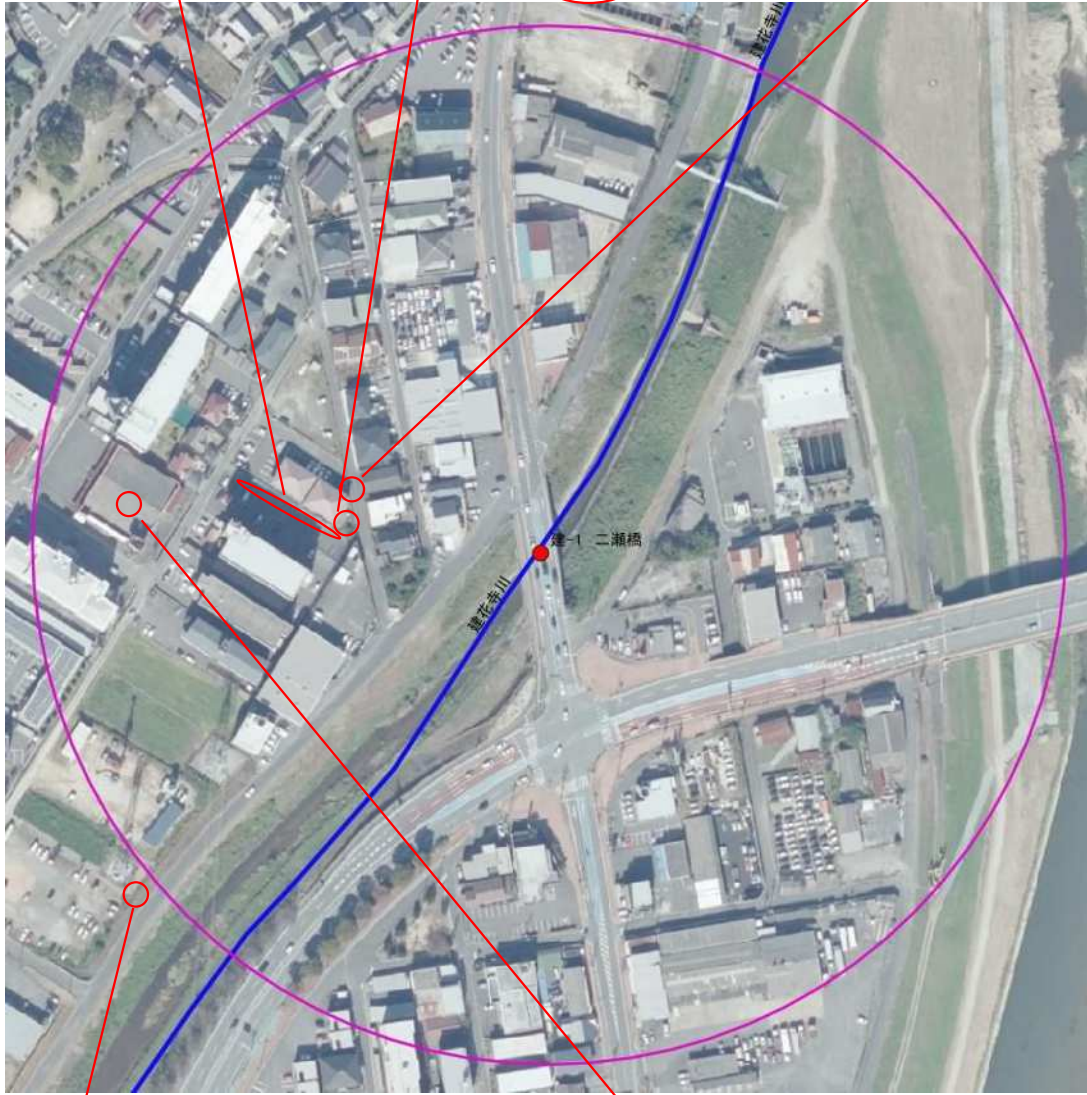
③側溝(4)



②雑種地(3)



①側溝(3)



④側溝(4)



⑤廃店舗(6)



図 5-1-17 河川敷の周辺のごみ分布状況 (建 1_二瀬橋周辺)

①ごみステーション(-)



③小売店(-)



②廃事業所(-)



④雑種地(2)



⑥廃事業所(-)



⑤廃屋(-)



図 5-1-18 河川敷の周辺のごみ分布状況 (建 2 : 伊岐須橋周辺)

①雑種地(3)



②山林(3)



③道路(4)

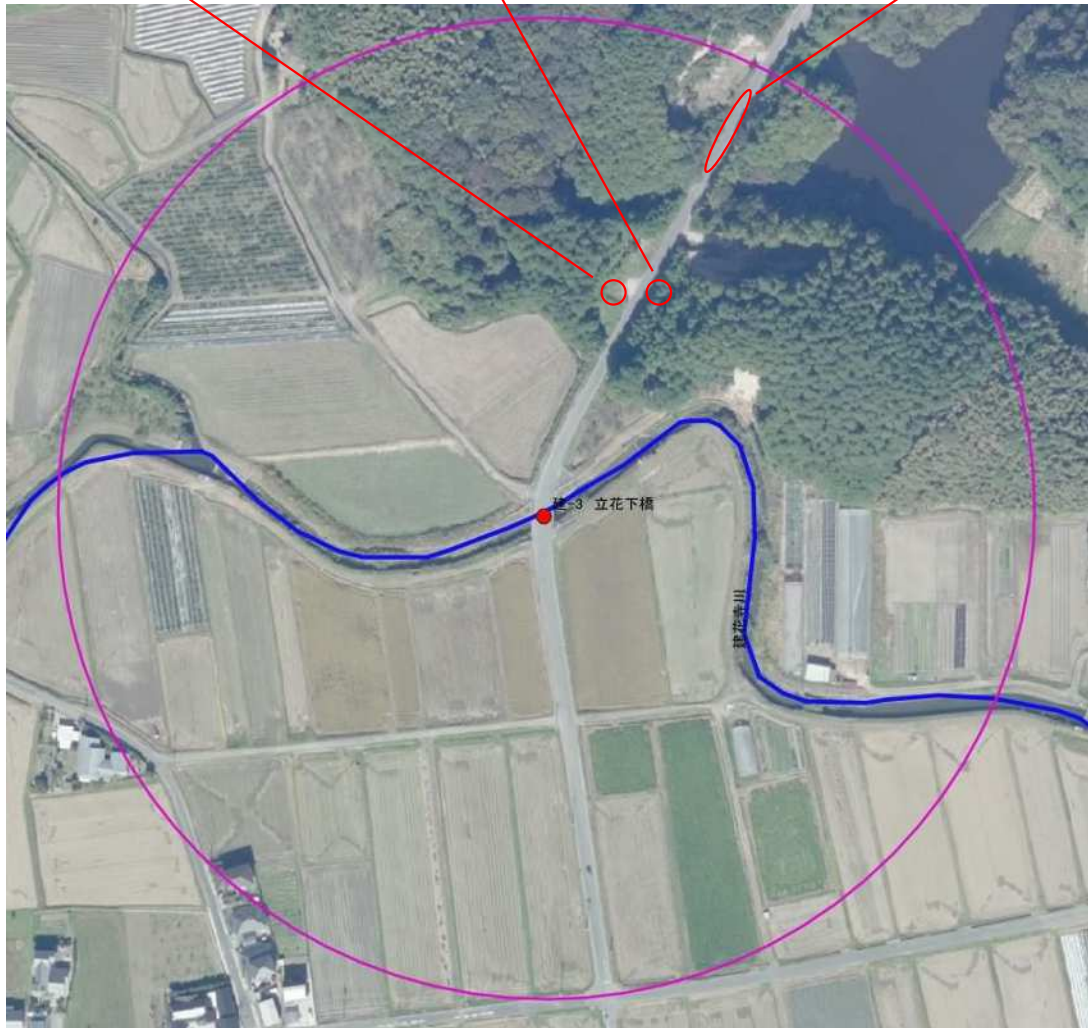


図 5-1-19 河川敷の周辺のごみ分布状況 (建 3_立花下橋周辺)

(5) 堂面川

調査地点周辺の地域概況を表5-1-18、確認した散乱ごみの状況を表5-1-19～表5-1-21、図5-1-20～図5-1-22及び以下に示す。

表 5-1-18 調査地点周辺の地域概況

橋梁名	周辺の地域概況
仮屋前橋	<p>周辺は住宅地となっている。住宅は新旧が混在しているが、廃屋も多くみられた。南側約 100m に自動車学校があることから、域外から本地区を訪れる人が多いことも想定される。</p> <p>本橋の上流河川敷には桜並木が整備されている。一方で、堤防道路は歩行者用として整備されていないため、車の往来がある場合、歩行者は、若干、通行しにくくなっている。堤防道路では学生が自転車通行している様子を確認したことことから、本道路が通学路であることも想定される（近隣の高校は本橋から北東約 700m）。</p>
七夕橋	<p>周辺は住宅地で、本橋道路沿いには事業所が立ち並んでいる。河川近隣にコンビニエンスストアが立地している。また、本橋の東側約 200m に大きな公園がある。</p> <p>河川沿いの道路は歩行者用に整備されている訳ではないが、散歩者は確認できた。なお、本橋を通行する車両は比較的多かった。</p>
前丁橋	<p>周辺は田園、集落となっている。北西 100m に高齢者施設があり、複数の資材置き場（建設業）が点在している。本橋道路の交通量は少なく、地元の方が散歩している程度であった。</p>

①仮屋前橋

調査範囲内では、周辺より低く、草木が繁茂する等、整備も行き届いていない土地にごみが溜まっている事例がみられた。出口のない低い土地にごみが溜まると、除去しない限りごみは溜まり続けることとなる。自動車学校駐車場に近接した線路法面に大量のごみが堆積していることを確認した。土地利用を鑑みると、駐車場利用者が投棄したごみが長年溜まり続けたものと想定される。水系につながっているが流出している様子はないものの、このままの状態が続くと、周辺の生活環境にも影響を及ぼしかねないため早急な対策が必要である。これらの地点のごみは、更に大きなホットスポットに拡大する恐れがあるので留意すべきである。

調査範囲内で多くの廃屋を確認した。水路そばの廃屋に関しては現時点ではすぐに河川に流入する恐れはないが、台風等の自然災害時には流入リスクが高まることが想定される。

表5-1-19 仮屋前橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	水路	3	空き缶、ペットボトル、プラ容器包装、ガラス瓶
②	雑種地	5	発泡スチロール、家電（掃除機?）、空き缶、レジ袋、プラ製品、ペットボトル、容器包装（紙）
③	雑種地	4	発泡スチロール、空き缶、レジ袋、プラ製品、ペットボトル、靴
④	事業所	—	—
⑤	廃屋	評価不能	家庭系ごみ
⑥	廃屋	—	—
⑦	線路のり面	7	空き缶、ペットボトル、容器包装（プラ）、容器包装（紙）、プラ製品、レジ袋、ビニル片

②七夕橋

調査範囲内では、全体的には散乱ごみはほとんどなかったが、雑木林など人の立ち入りが無い場所ではごみの不法投棄を確認した。本地で確認した林地は、アクセスしやすく人の目が届きにくい場所である。河川から遠い場所ではないが、地形的にも、ここで確認したごみが河川に流入する恐れはないが、放っておくと更に大きなホットスポットに拡大する恐れがあるので留意すべきである。

調査範囲内で廃屋を確認したが、敷地内に繁茂した草木にごみが引っ掛かり溜まっている様子もみられたので、草刈り等の管理は必要である。

表5-1-20 七夕橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	廃屋	—	—
②	小売店	—	—
③	宅地（住居跡）	—	—
④	雑種地	5	小型家電（ラジカセ）、プラ製品（プリンター等）
⑤	林地	6	プラ製品、発泡スチロール、金属類（看板）、粗大ごみ（自転車）等
⑥	雑種地	7	家電（冷蔵庫等）、プラ製品（照明器具等）

③前丁橋

調査範囲内では、散乱ごみはほとんど確認できなかった。廃屋、資材置き場は確認されたものの、敷地外にごみが流出している様子もなく、河川に流入する可能性は低いと考えられる。

表5-1-21 前丁橋周辺における散乱ごみの状況

地点番号	地点名	ごみランク	主な組成
①	池	4	空き缶、プラ容器包装、ビニル、プラ製品
②	廃屋	—	—
③	事業所	—	—

②雑種地(5)



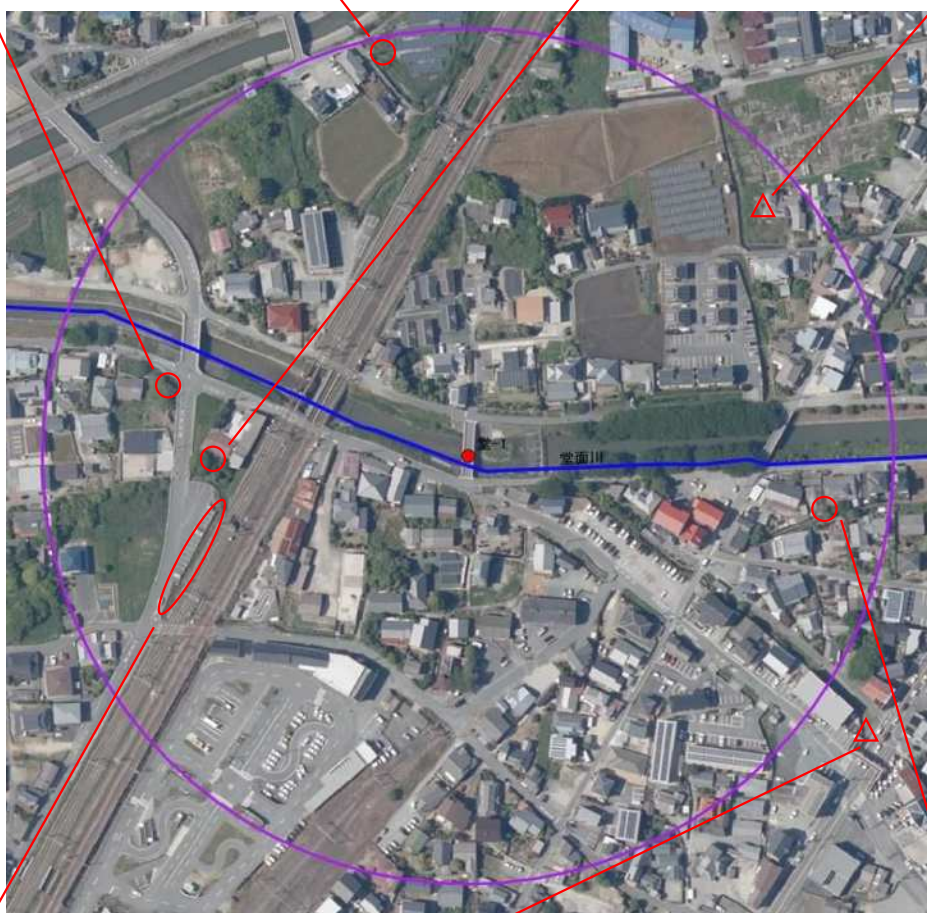
①水路(3)



③雑種地(4)



⑥廃屋(-)



⑦線路のり面(7)



④事業所(-)



⑤廃屋(評価不能)



図 5-1-20 河川敷の周辺のごみ分布状況 (堂 1_仮屋前橋周辺)

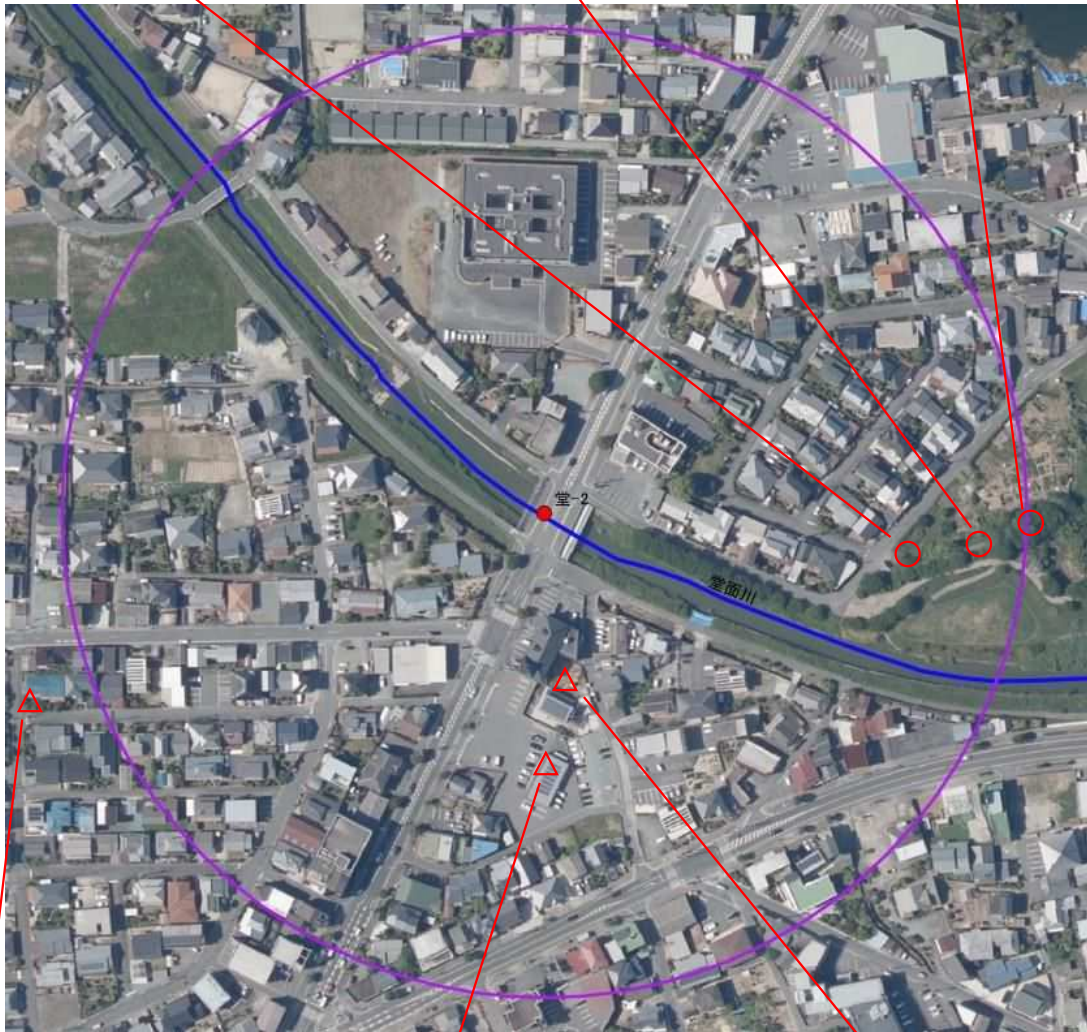
④雑種地(5)



⑤林地(6)



⑥雑種地(7)



①廃屋(-)



②小売店(-)



③宅地(-)

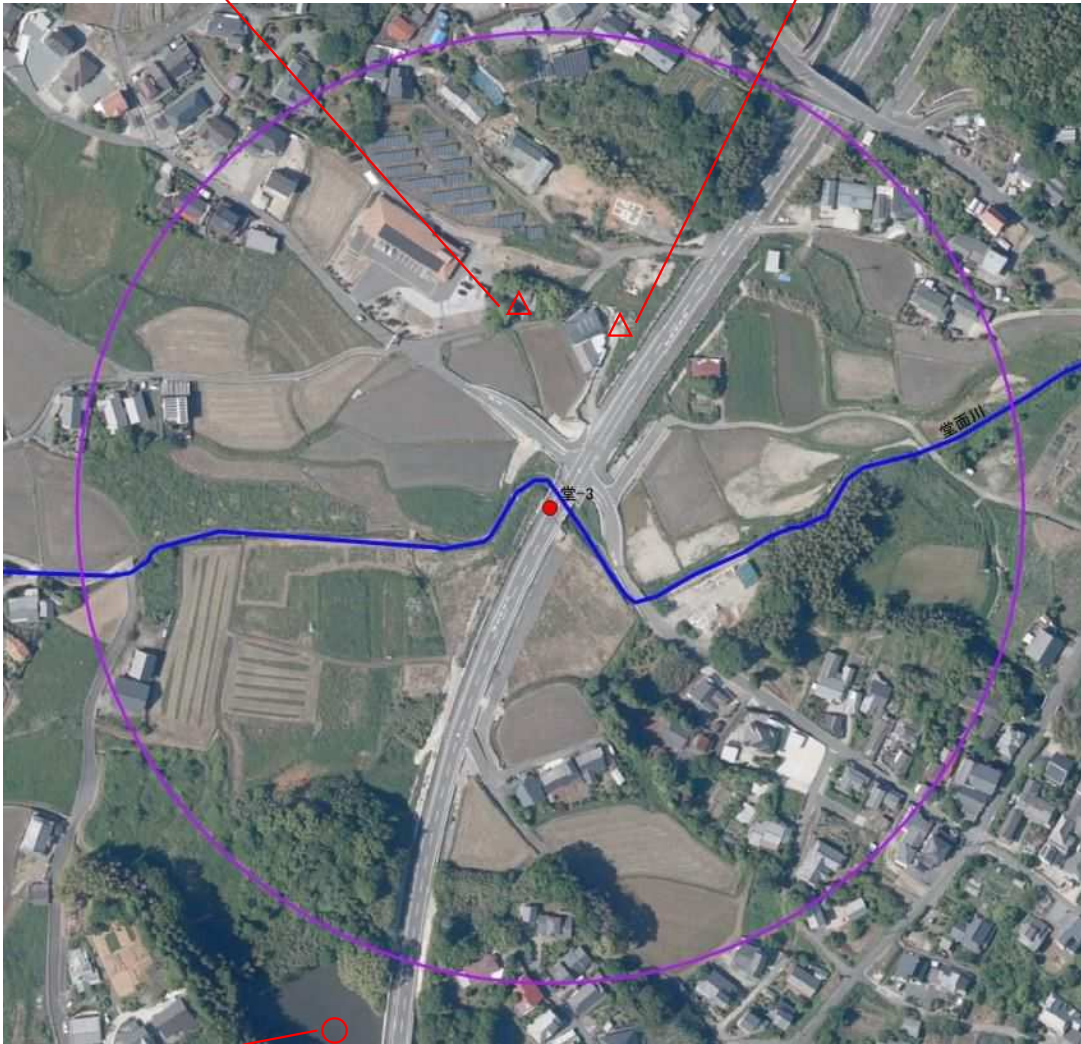


図 5-1-21 河川敷の周辺のごみ分布状況 (堂2_七夕橋)

②廃屋(-)



③事業所(-)



①池(4)



図 5-1-22 河川敷の周辺のごみ分布状況（堂 3_前丁橋）

(6) まとめ

陸域の散乱ごみについて、調査結果により確認した特徴的なこと、留意すべきことを以下のとおりまとめた。

- ✓ 住宅地は散乱ごみが少ない。住民以外の第三者が、地内で行動する機会はそもそも少ない。また、ごみが散乱していたとしても、住民により速やかに清掃されることも想定される。
- ✓ 工業地では、比較的散乱ごみを確認した。ほとんどの事業所ではごみの散乱を確認しなかったものの、不適正なごみの管理をしている事業所も確認した。
- ✓ 廃屋、廃事業所には、その場所・建物自身のごみに加え、外部からのごみが集まってくる（投棄される）傾向がある。 ※「ごみのごみを呼ぶ」⇒「割れ窓効果」
- ✓ 周辺より土地が低かったり、植物が繁茂している土地（雑種地等）には、ごみが溜まりやすく、不法投棄される場所にもなりやすいことを確認した。植物に絡まった（補足された）ごみは、外部からの力が加わらない限り溜まり続けていく。また、これに人の滞留が加わることで、更にごみが散乱した事象も確認した。
- ✓ 学生（高校生等）の通学路にあたる河川敷では、菓子包装や飲料ペットボトル・空缶等、学生を想起させるごみを多く確認した。
- ✓ 不適正な管理のごみ置き場（ごみステーション）を確認した。今回の調査では、周囲へのごみの散乱は確認されなかったものの、ごみの発生源になる恐れはある。
- ✓ 開放型の側溝（開渠）で、流水の形跡があまりない箇所にはごみが散乱・堆積していた。
- ✓ 調査範囲内に小売店（コンビニエンスストア等）があった場合、店舗敷地内は清潔であるが、周辺においてごみの発生源になっている事例を確認した。
- ✓ 住宅地でも、近隣に人があまり立ち入らない暗い雑木林等があると、不法投棄の温床になっていた。
- ✓ 車しか通行しないような道路で、かつ、住宅も近隣にない箇所で、多くのごみを確認した事例があった。いわゆる車からのポイ捨てであることが想定される。

5-2 陸域のごみ調査（定量調査）

5-2-1 調査方法

(1) 調査方法

各調査範囲を踏査し、道路上等の公有地に散乱しているごみについて、目視により組成（種類）と個数をカウントした。カウントしたごみは、踏査距離に応じて散乱ごみ原単位（個/km）を推計した。

(2) 調査地点

御笠川周辺で、住宅地、商業地、工業地として各1地域を設定し行った。

各地域の延べ踏査距離（公道距離）は、住宅地 3,336m、商業地 4,658m、工業地 3,033m である。

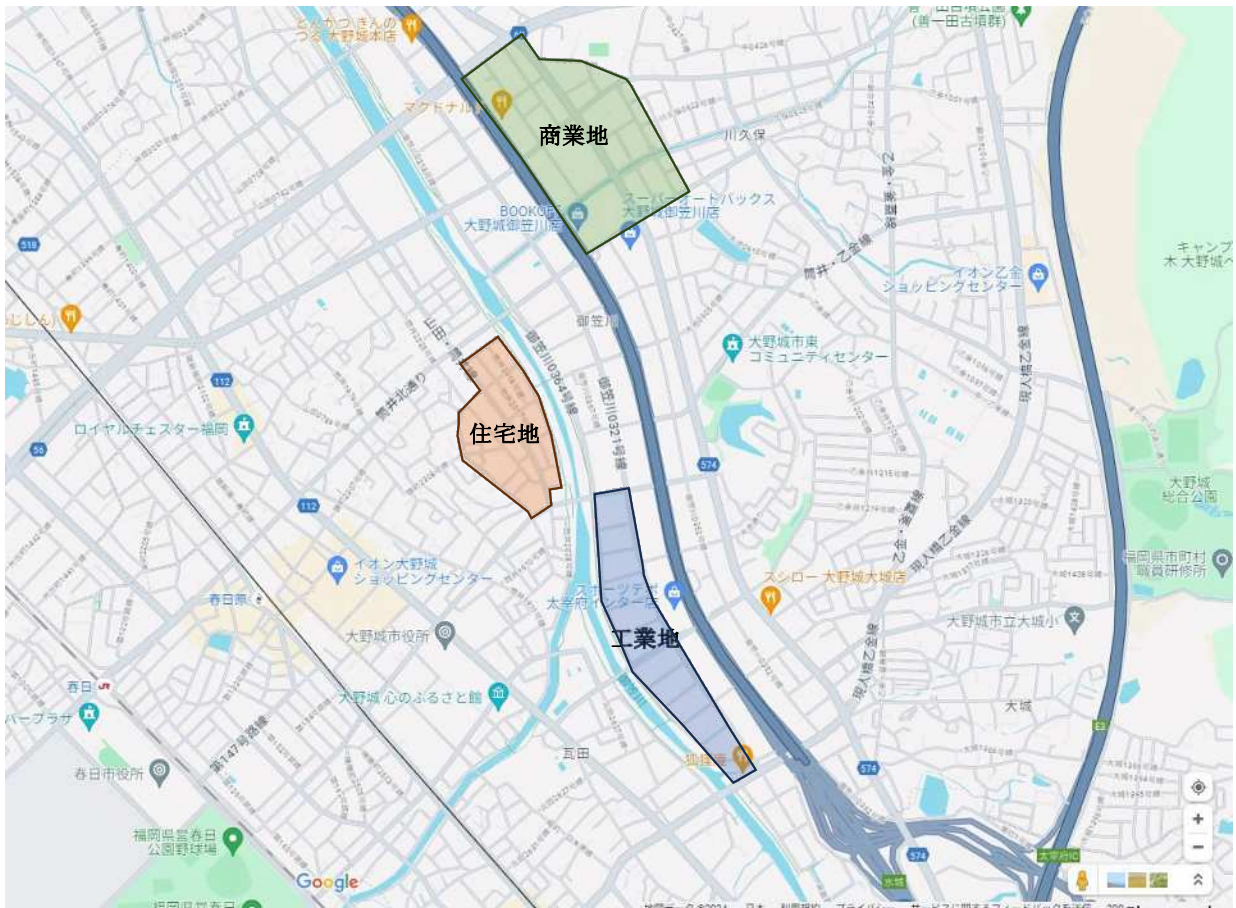


図 5-2-1 調査範囲

(3) 調査日

令和 6 年 2 月 22 日

5-2-2 調査結果

調査結果の概要を下表に示すとおりであり、踏査 10mあたりの個数は住宅地 0.36 個/10m、商業地 1.01 個/10m、工業地 1.04 個/10m で商業地と工業地が同程度、住宅地が領地の半分以下であった。なお、各地で多く確認された品目は、商業地：たばこ吸殻、住宅地：紙片、工業地：たばこ吸殻であった。

表 5-2-1 大分類別のごみの個数

ごみの量		商業地	住宅地	工業地
回収日		2月22日	2月22日	2月22日
回収曜日		木	木	木
大分類項目		個数	個数	個数
人工物	プラスチック	386	71	232
	発泡スチロール	2	7	4
	ゴム	2	0	6
	ガラス、陶器	2	2	8
	金属	17	6	12
	紙、ダンボール	60	31	40
	天然繊維、革	3	3	0
	木（木材等）	0	1	10
	電化製品、電子機器	0	0	3
	小計	472	121	315
自然物		0	0	0
総合計		472	121	315

表 5-2-2 多く確認されたごみ、その 1

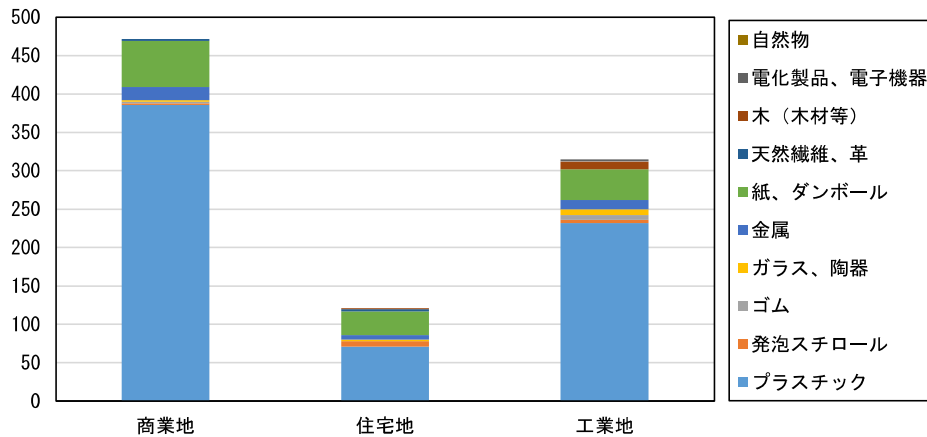
商業地			
順位	OW製品	品目	個数
1	○	たばこ吸殻（フィルター）	271
2		紙片（ダンボール、新聞紙等を含む）	46
3	○	シートや袋の破片	34
4	○	食品の容器包装（プラスチック）	26
5		硬質プラスチック破片	23
6		アルミの飲料缶	9
7	○	飲料用（ペットボトル）< 1L	7
7		タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む）	7
9	○	ボトルのキャップ、ふた	6
9	○	食品容器（プラスチック）	6

住宅街			
順位	OW製品	品目	個数
1		紙片（ダンボール、新聞紙等を含む）	25
2	○	たばこ吸殻（フィルター）	20
3	○	食品の容器包装（プラスチック）	17
4		硬質プラスチック破片	6
5	○	コップ、食器	5
5	○	食品容器（プラスチック）	5
5	○	シートや袋の破片	5
8	○	レジ袋（内容物入り）	4
8		発泡スチロールの破片	4

表 5-2-3 多く確認されたごみ、その 2

工業地			
順位	OW製品	品目	個数
1	○	たばこ吸殻（フィルター）	82
2		硬質プラスチック破片	35
3	○	食品の容器包装（プラスチック）	31
3	○	シートや袋の破片	31
3		紙片（ダンボール、新聞紙等を含む）	31
6	○	飲料用（ペットボトル）＜1L	24
7		木材（物流用パレット、木炭等含む）	10
8		食品以外容器	7
9	○	レジ袋（内容物入り）	6
9		ゴムの破片	6
9		タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む）	6

個数（個）



個数

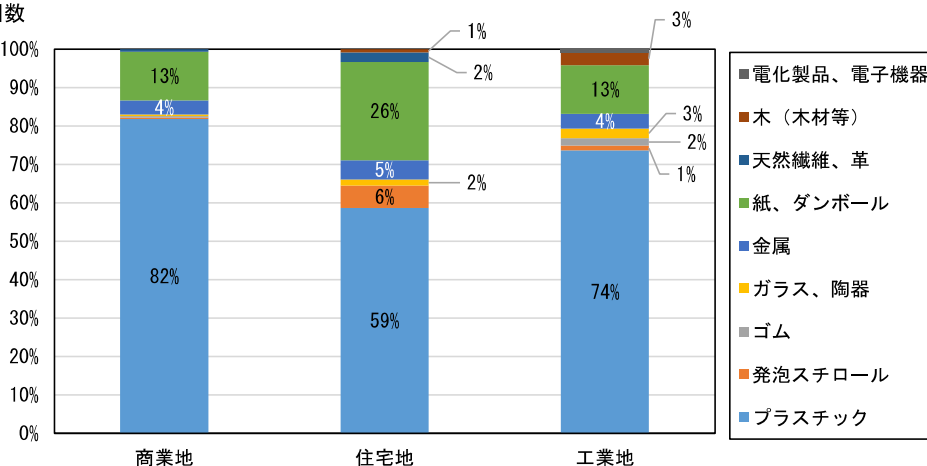


図 5-2-2 各調査地域のごみの個数と割合